

衆議院の解散にあたっての談話

民主党兵庫県連代表 辻 泰弘

本日、麻生内閣の下で衆議院が解散された。

民主党が、昨年来、待ちに待った闘いの時がようやく訪れた。まさに、日本の政治の根本的な改革を行い、庶民の手に政治を取り戻す政権交代の時である。

今や、自民党は政権与党としての信を失い、総理の威信は地に落ち、政策的にも完全に破綻した。もはや、自民党政権の継続の上に、日本の将来の明るい展望は望めず、国民生活の安定・向上もあり得ない。

今こそ、「生活第一」を訴えてきた民主党が政権政党として日本の政治を担わなければならない。

われわれは、鳩山代表を先頭にして、年金・医療・福祉・雇用・教育などの政策を謳ったマニフェストを高く掲げ、県下の全選挙区における圧倒的な勝利を博し、もって国民生活の安定・向上、格差の是正を実現すべく、兵庫県連の総力を挙げて闘う決意である。

暑い暑い最中の闘いとなるが、民主党の公認・推薦各候補の熱い熱い情熱を込めて、この天下分け目の闘いを断固たる決意で闘い抜き、必ずや全ての候補者の勝利を勝ち取る。

兵庫県民の皆さんに、この兵庫からの発信で「真夏の政権交代」を実現することを強くお訴えしたい。

(2009.7.21)